

# 編 修 趣 意 書

## (教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-90	高等学校	家庭	家庭基礎	第1～3学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
009 開隆堂	家基 317	家庭基礎 明日の生活を築く		

### 1. 編修の趣旨と留意点

教育基本法の目的の実現，学校教育法の目標の達成のために，家庭基礎の特質を効果的に生かした学習ができるよう，以下の趣旨のもとに教科書を編修しました。

◎基礎・基本となる知識や技術について，男女ともに家庭生活を営む担い手として，また生涯を見通して生活を創造する主体として，総合的・体験的かつ科学的に習得できるようにする。

◎男女共同参画型社会に対応していけるように，生活の諸面にわたって男女が共同責任で生活を営む意識が高められるようにする。

◎人は一生を通して発達するという生涯発達の視点に立ち，高齢者を含めて人間を中心に据え，生涯を通して自立をめざし育ち続けることが認識できるようにする。

◎人権を尊重し擁護する意識を高め，さまざまな人びとが対等にそれぞれの立場を受け入れ合い，さらには異文化とも共生していくための視点をわかりやすく表現する。

◎少子高齢社会に対応し，高齢者自身を自立した主体者としてとらえ，異世代間が相互に学びあい支援し合う生活のあり方や共生社会の方向を見通すことができるようにする。

◎地域の環境保全の視点，ひいては地球環境と共生していくための視点を重視し，自らの生活を見直して，持続可能なライフスタイルを築く力を育成できるようにする。

◎生活を科学と文化の両面から受けとめ，生活の主体者として，受け継ぎ，さらに発展させる視点を重視して記述する。

◎生活の営みに必要な生活資源や生活活動にかかわる事柄を関連づけて理解し，生活設計やキャリアプランニングに生かせるように，参考事例を随所に豊富に取り上げる。

## 2. 編修の基本方針

教育基本法第2条の目標の達成のために、以下のことを編修の基本方針としました。

### ☆広く情報を収集し、自ら判断できる主体性の形成

- ・ 日常の家庭生活の中で、自分で課題を見つけ、自ら学び自ら考えて主体的に判断・行動し、問題を解決する力が育つことをめざしました。
- ・ 学習の見通しや課題意識をもって学び、生活に応用発展できるように、全体構成や各章の導入、本文中の事例、実習例などを工夫しています。また、教科書の最終章に生活設計を位置づけ、全体の学習をまとめる形で、将来のライフスタイルに向けた意思決定ができる構成にしています。

### ☆生活に関する知識や技能の習得と勤労観の形成

- ・ 家庭生活に関する基礎的・基本的な知識や技能を系統的に習得・定着できるように図り、また体験的に学ぶことにより、職業観が養われることをめざしました。
- ・ 各章では小学校、中学校の学習の上に積み重ねて実践できる内容を配置し、また、生活事象のなぜを科学的に捉えるコラム（『サイエンスアイ』）を設定し、総合的・多面的に生活を理解できるように図っています。またそれぞれの学習内容に関連した職業に携わる人のメッセージ（『キャリア』）を掲載することで勤労観の形成を図っています。

### ☆共生の理解と他者とのかかわる力の育成

- ・ 地域や社会に目を向け、地域に住む様々な人びととのかかわる学習を多く設定し、社会の一員として他者と協力し、支えあうことができることをめざしました。
- ・ 直接的・間接的なかかわり方の事例を多く示し、共生社会をつくっていく力を育めるようにしています。

### ☆持続可能な社会の実現のための教育

- ・ 環境教育・防災教育を重視し、生徒が現状の課題を認識し、持続可能な社会形成に主体的にかかわっていただけることをめざしました。
- ・ 教科書全体で、環境に配慮した生活のしかたや、将来にわたった安全・安心な暮らしを考える題材を掲載しています。

### ☆伝統や文化に関する教育の充実

- ・ 日常生活に受け継がれてきている衣食住などの伝統文化をとりあげています。その伝承の意義を理解し、また自分の生活が文化や歴史を創っていることを自覚し、次世代に継承すべき生活様式を創っていく態度を形成することをめざしました。
- ・ 日本ばかりでなく、世界の伝統文化やその歴史についても数多く取り上げています。

以上について、日常生活に関心を持ち、自分にできることについて実践・行動し、主体的に生活を営む能力を育てられることをめざしました。

### 3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入課題の「考えてみよう」、「話し合ってみよう」等を設定し、なぜそう考えるのか、という問いかけから、事象を科学的にみる態度を養うことを目指しています。本文以外にも、参考やコラム、またイラスト・写真などで多彩な事例を示し、幅広い教養が身につくようにしています（知育 第1号）。</li> </ul>	全体
1部2章 「子どもの健康と安全を考えよう」 他 2部1章 「若者に多い朝食欠食率」「食品と栄養」 他 2部2章 「被服の機能と着装」 2部3章 「安全で快適な住まい」	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの健やかな成長のために、必要な環境についての資料を充実させています。また、食事による体づくりの必要性に関する内容や、「被服の着用」、「快適な住まい」「安全な住まい」ほか、健康な生活に係る内容を充実させています（体育、食育 第1号）。</li> </ul>	p.37 p.73,78~89 p.112~115 p.138~143 他
1部1章 「青年期の自立と家族・家庭」 他 教科書全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分は今、「おとな」なのか、まずは生徒が自分の生活を振り返って考えを表明する場面を設け、主体的な思考活動ができる場面を用意しています。その後、自立の色々なかたちを学習しながら、主体的に生きる「自律」についても合わせて学習できるようにしています。</li> <li>また、教科書全体で自立をテーマに、生活を問い直し改善できるよう、考え体験する学習を充実させています。さらに「ホームプロジェクト」では、学習したことを生活に活かすための多様な課題例を示しています（自主、自律 第2号）。</li> </ul>	p.8~15 他 全体
1部1章 「キャリア」（トンネル工事の女性現場監督） 他 生涯の生活設計 未来のキャリアを見つめる 2部4章 消費者市民として生きる 生涯の生活設計 他 教科書全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業観を養い、社会に目を向けられるよう、実際に働いている方からのメッセージを各章の中に入れていきます。</li> <li>「消費者市民への道」、「生涯の生活設計」において具体的な将来設計と向き合い、これ考えることによって、職業と生活との関連を意識することができるようにした。（キャリア教育 第2号）</li> </ul>	p.15,47,55, 68 他 p.180・181 p.148~171 p.172~183 他全体
1部1章 「自分らしさを見つめる」「男女共同参画社会」 他 1部1章 「これからの家族を考えよう」 1部2章 「男女の協力による子育て」 生涯の生活設計 「どのように時間を使っている？」 「どんな働き方をしたい？」 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭でも社会でも男女が協力して支える社会をめざす男女共同参画社会の重要性を示し、教科書全体にわたり、図・写真・イラストなどを中心に公平な配慮をしています。</li> <li>人生設計と関連して、男女共同参画社会の理念を解説し、両性ともに子育てに参画することを示しました。（男女平等 第3号）。</li> </ul>	p.12 p.27 p.26 p.38 p.174 p.178・179 他
1部3章 「高齢者の尊厳とケアを考えよう」 1部4章 「高齢者福祉には何がある？」 共生社会における地域や家族 生涯の生活設計 「人的資源を広げよう」 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>共生は個々人の社会的自立に基づくものであることを示し、「共生社会における社会や地域」において、リスクに対する共生の必要性を示しました。（自他との協力 第3号）。</li> </ul>	p.54~57 p.58~63 p.175 他
2部1章 「国際的な視野で取り組む」 2部4章 「多様化と利便性について考えよう」 「消費者の権利と責任」 「消費者市民の担い手となる」 生涯の生活設計 「持続可能な社会に向	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの社会を生きる主体として、権利には責任が伴うことを示し、また公正な社会に向けた取り組みを随所で取り上げ、具体的に考えられる課題を工夫しています。また各内容に関連した法律を示し、生活と法律を結びつけて考えられるよう配慮しました。（正義と責任 第         </li> </ul>	p.77 p.158・159, p.164~167 p.170・171 p.182・183

けて) 他	3号)	他
2部1章 「食生活から環境に配慮しよう」 2部2章 「資源としての被服を考えよう」 2部3章 「環境と共生する住まいとまち」 2部4章 「持続可能な消費」 他	・「エコクッキング」、「食生活と環境」、「衣生活と環境」、「環境にやさしい住まい」、「環境保全とライフスタイル」ほかで、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指しました（環境教育第4号）	p.76 p.128・129 p.147 p.168~171 他
1部4章 「コミュニティに参加しよう」 2部3章 「災害に備えるには？」 他	・東日本大震災など近年の自然災害の事例を積極的に取り上げ、日頃より防災への意識を高め、生命を尊ぶ態度を身につけることを目指しています ・誕生した生命を尊び、子どもが健全に発達していくための子どもの権利と福祉を具体的に示しました。（防災教育、生命の尊重、第4号）	p.29・30 p.64・65 p.42~45 p.68・69 p.142・143 他
折り込み頁「食生活の文化」 2部2章 「被服の機能と着装」 2部3章 「さまざまな住まいと暮らし方」 他	・我が国の衣食住の文化が先人の知恵や工夫を多く含んだものであること、また、これら文化が地域生活に根ざしたものであることを示した。和食・郷土料理、伝統的な民家や、和服などを数多く取り上げ、また日本各地の伝統文化の事例を充実させ、我が国の独自の文化と先人の工夫に気づき、愛着をもつとともに、日本人としての誇りが育まれるようにしました（伝統文化、郷土愛 第5号）。	p.193~196 p.110・111 p.132~137 他
1部1章 「フランスのPACS」 2部1章 「食の問題を解決する世界の動き」 2部3章 「地域による住まいのちがひ」 他	・諸外国に目を向けさせる題材を豊富に取り上げ、世界の国々に関心をもち、他国と協力して、これからの国際社会に貢献する態度を育むようにしました（国際理解 第5号）。	p.24 p.77 p.134 他

#### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 写真・イラストの取り上げ方では、男女の平等、高齢者や障がいのある人、外国籍の人などに配慮し、生徒の「共生」「人権」の意識が培われるよう工夫しました（学校教育法 51 条 1）。
- 健康で安全な生活を送るための基礎的な学習を充実させるとともに、国民の健康と安全を守る制度や法律の必要性についても理解できるように工夫しました（学校教育法 51 条 1）
- 各章では、それぞれの学習内容に関連する分野で職業に就いている方のメッセージを掲載することで、キャリア教育の充実を図りました（学校教育法 51 条 2）
- 地域の文化を積極的に取り上げるだけでなく、地域の高齢者との交流や、和食の献立の実習などの授業場面を取り入れることにより、生徒が体験的に身近なものとして伝統文化をとらえられるように工夫しています。また伝統文化を現代のファッションに取り入れた例や古民家再生の事例を紹介することにより、伝統文化を今に生かす視点も養われるよう配慮しました（学校教育法 51 条 2）
- 思考力・判断力・表現力を身につけるために、問題解決型学習における考察、話し合いの課題や、実習等をふり返り、まとめるための課題などの言語活動を充実させました（学校教育法 51 条 3）。
- 生活の衣食住における事象について、科学的な視点から考え、課題解決ができるように題材を工夫しています。自然科学・社会科学的な思考で、判断しようとする態度を身につけられるよう、題材を工夫しました（学校教育法 51 条 3）。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-130	高等学校	家庭	家庭基礎	第1～3学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
009	家基 317	家庭基礎 明日の生活を築く		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### 1) 学習への興味・関心を図るための配慮

\* 学習に入る前のガイダンスページでは、中学校までの学習内容を積み重ねて、家庭基礎で学習する内容のイメージがつかめるように構成しています。写真で示すことにより、学習への興味・関心を喚起し、これからの自己の生活に引きつけて考えさせるように配慮しました。

\* 各部の導入ページでは、学ぶ内容を学ぶ意図を概略的に理解できるように示唆しました。

\* 章の導入では、高校生の目線に対応して、興味・関心を喚起する課題を設け、各章の学習意図がわかるようにしました。

\* 本文の内容はできるだけ生徒の関心や生活態度に即して記述するように心がけました。また、必要な箇所に「小課題」や「参考」（キーワードの解説）、「コラム」（現代社会の課題）、「サイエンスアイ」（科学的な視点のコラム）、「キャリア」（職業人のメッセージ）などの囲みを設定して、生活事象を科学的にとらえたり、さまざまな課題を意識し、考えながら学習できるように配慮しました。

### 2) 学習を効果的に進めるための配慮

\* 「家庭科を学ぶにあたって」では、家庭科で学ぶことを生活に生かしていけるように、学ぶ目的や学び方について提示しました。

\* 学習内容の理解を助けるために本文の側注を付し、補足説明を加えました。また、「豆知識」や「参考」の体裁をとり、本文と関連する用語について解説などを付しました。

\* 本文中には、必要に応じて参照ページ（⇒p.〇〇）を設けて、ほかのページとの学習の関連が図れるように配慮しました。

\*その他、「コラム」、「サイエンスアイ」、「キャリア」など適宜参考資料を取り上げ、必要に応じて学習内容を深めることができるように配慮しました。

### 3) 男女が学ぶことへの配慮

\*本文文章の記述や図・写真などは、男女平等、共同責任意識を高める視点で取り扱いました。

\*実習題材は、男女双方が興味・関心をもって取り組める題材を選定しました。

### 4) 人間の生活と福祉のかかわりの意識化

\*ライフステージごとに福祉がどのようにかかわっているかを具体的に示すことによって、人の生活と福祉についての意識化がはかれるようにしました。

\*また地域の中で、高校生も福祉の主体として、積極的にコミュニティにかかわっていけるように、地域で行われている取り組みの事例を多数掲載しました。

### 5) 「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の取り上げ方

\*学習した知識や技術を生かして、自ら課題を見出し、家庭や地域での生活を改善・充実しようとする積極的な態度が育成できるように、課題解決の道筋や実践例をヒントとして示しました。

### 6) 構成

\*自立した生活者として幅広い視点から主体的に生活の充実・向上を図るために基礎となる力と、実践的態度を育成できるように、以下のように2部構成+生活設計にし、配列を工夫しました。

\*教科書の最後に「生涯の生活設計」を独立して設け、全体の学習をまとめる形で、将来のライフスタイルに向けた意思決定ができる構成にしました。

#### 第1部 人生を見通し、共に生きる

- 第1章 青年期の自立と家族・家庭
- 第2章 子どもの発達と保育
- 第3章 高齢期の生活
- 第4章 共生社会における家庭や地域

#### 第2部 生活を営み、自立する

- 第1章 食べる
- 第2章 着る
- 第3章 住まう
- 第4章 消費者市民として生きる

#### 生涯の生活設計

生涯の生活設計

2. 対照表					
図書の構成・内容			学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1部 に生きる 人生を見通し、共	1章 青年期の自立と 家族・家庭	①青年期の自立	(1)-ア	8~15	3
		②家族・家庭を考える		16~27	4
	2章 子どもの発達と 保育	①子どもの発達と生活	(1)-イ	28~37	4
		②子どもの育つ環境		38~47	4
	3章 高齢期の生活	①高齢者の生活と課題	(1)-ウ	48~53	2
		②高齢社会を生きる		54~57	2
	4章 共生社会における 地域や家族	①リスクに備える	(1)-エ	58~61	1
		②高齢者と子育てへの 社会的支援		62~65	2
③共生社会に向けて		66~71		1	
第2部 生活を営み、 自立する	1章 食べる	①食生活の課題	(2)-ア	72~77	3
		②食品と栄養		78~87	5
		③食品の選択と保存		88~91	2
		④食事を調える		92~109	8
	2章 着る	①被服の機能と着装	(2)-イ	110~119	4
		②被服の管理と計画		120~131	4
	3章 住まう	①さまざまな住まいと暮らし方	(2)-ウ	132~137	2
		②安全で快適な住まい		138~143	2
		③まちづくりと住まい		144~147	2
	4章 消費者市民として生 きる	①生涯の経済計画と管理	(2)-エ, オ	148~155	4
		②消費行動と意思決定		156~167	4
		③持続可能な消費		168~171	1
生涯の生活設計			(2)-カ	172~183	4
ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動			(3)	184~189	(2)
			<b>計</b>	70	70